

神経難病の方との関わりを通じて ～通所リハビリでの実際～

今月はえいせい通所リハビリを利用している神経難病の方をご紹介します。この病気は、体のふるえ、動作がゆっくりになる、筋肉がこわばり手足が動かしにくくなる、転びやすくなるなどの症状を特徴とする難病の一つです。この病気の治療には指示通りの薬の内服とリハビリテーションの実践が大切です。また自分らしい生活を送り、家庭での役割や趣味を続け活動量を低下させないことも大事なことです。



自転車エルゴ
転倒の心配なく運動でき、体力の維持・向上が望めます



薬の内服
通所に来ていても、時間通りにしっかりと内服します



棒体操
柔軟性、バランス能力の向上が転倒の予防につながります



家庭での役割
家での役割や趣味などで普段から体を動かす習慣をつけます

豊田えいせい病院
リハビリ新聞



2022年
4月25日
第36号

令和4年度新入職員研修

回復期リハビリテーション科の理学療法士、言語聴覚士の3名が令和4年度新入職員研修で講師を務めました。今年度の新入職員研修では、「起居動作・移乗の介助体験」「嚥下食の体験」を行いました。

新入職員の方々にも患者さんに対しての基本的な介助方法や食事の注意点を知らせてもらうことが出来ました。



介助の体験



嚥下食の体験

リハビリ小ネタ

口まわりは大切 シリーズ⑧

【嚥下しにくい食品と工夫】

今回は水分を例にして紹介します。

～さらさらした液体～

例：水、お茶、ジュース、汁物など



液体は流れる速度が速いため飲み込みの反射が遅延している方はムセや誤嚥の原因になります。また味噌汁のように具材と水分が混在する食べ物もムセやすいです。

工夫としては、増粘剤、片栗粉やルウの使用をしてとろみをつける。ゼラチンを使用して、ゼリー状にするがあります。

ワンポイント！

むせた時に慌てて水分を摂るとさらにむせる可能性があるため、**むせた際はしっかりとむせて、落ち着いてから水分を摂るよう**にしてください。

2022年4月1日から
新たに5名の療法士が
豊田えいせい病院に
入職しました。



豊田えいせい病院 診療技術部

回復期リハビリ科 TEL : 0538-34-6123 FAX : 0538-34-6231
療養リハビリ科 回復期リハビリ科と共通
包括リハビリ科 回復期リハビリ科と共通
通所リハビリ科 TEL : 0538-34-6223 FAX : 0538-34-6222
訪問リハビリ科 TEL : 0538-34-6137 FAX : 0538-34-6231